

特別全国障害者スポーツ大会 2023



燃ゆる感動 かがしま大会



大会報告書

はじめに

【全国障害者スポーツ大会の意義と歩み】

全国障害者スポーツ大会は、障害のある選手が競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、多くの人々が障害に対する理解を深め、障害のある人の社会参加を推進することを目的として開催される国内最大の障害者スポーツの祭典です。

全国障害者スポーツ大会は、平成12年（2000年）まで別々に開催されていた「全国身体障害者スポーツ大会」と「全国知的障がい者スポーツ大会」を統合し、平成13年（2001年）に第一回大会が宮城県で開催されました。以降、オリンピック終了後に開催されるパラリンピックと同じように、毎年、国民体育大会終了後に開催されています。

【燃ゆる感動かがしま大会の概要】

基本方針 鹿児島で開催する「燃ゆる感動かがしま大会」は「コロナ禍からの再生と飛躍を象徴する大会として、「深めよう！ふれ愛の絆」「見つけよう！未来に輝く夢と希望」「届けよう！熱い思い」の3つの基本方針とし、障害のある人もない人も、大会に参加する全ての人々がスポーツを通じて心を通わせ、未来に輝く夢と希望を見つけることができる大会とする。

また、世界有数の活火山である桜島や、明治維新を成し遂げた偉人に象徴される厚く情熱的な鹿児島、まごころのこもったおもてなしで来県者の方々を温かくお迎えするとともに、熱線を繰り広げる選手たちの熱い鼓動や歓声を、鹿児島から南の風に乗せて全国に届けることのできる大会を目指す。

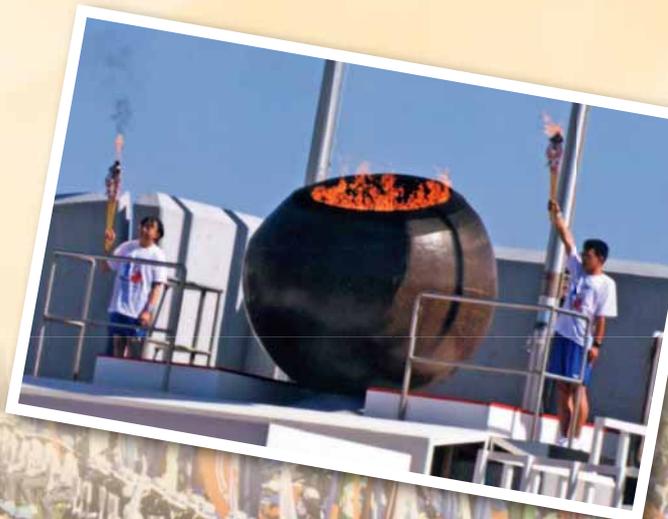
大会日程 令和5年10月28日（土）～30日（月）
会場 鹿児島市など7市
実施競技 個人7競技、団体7競技、オープン競技3競技
参加自治体 47都道府県+20指定都市

【札幌選手団の活躍】

選手団の構成 個人競技 26人、団体競技 16人、
役員 34人 合計 76人
成績 金8個、銀14個、銅4個

【選手団の日程】

10月12日（木） 結団式
10月26日（木） 個人競技出発
10月27日（金） 団体競技出発
各会場にて公式練習
10月28日（土） 開会式・大会1日目
10月29日（日） 大会2日目
10月30日（月） 大会3日目・閉会式
10月31日（火） 帰札・解団式



熱い鼓動
風は南から

強化練習 9月2日～10月21日

大会に向けて各競技
日頃の練習の成果を発揮できるよう・・・



結団式 & 選手団全体会議 10月12日(木) 札幌市身体障害者福祉センター

札幌市選手団団旗が浅香団長に授与された後、秋元市長に代わって金谷スポーツ部長から「札幌市の代表として、北の大地からの、勢いのある風のような、力強いパフォーマンスを期待し、日頃の練習の成果を十分に発揮していただきたいと思います。」と激励の挨拶がありました。

その後、札幌市選手団としての留意事項・スケジュール・ユニホーム支給など、大会に向けて気持ちを一つに・・・



開会式 10月28日(土) 白波スタジアム(鹿児島市)

雲一つない秋晴れの下、47都道府県と20政令指定都市の選手が白波スタジアムに入場しました。札幌市選手団は北海道に続いて66番目に緊張しながらも笑顔で行進しました。式典には秋篠宮ご夫妻がご臨席して、『『熱い鼓動、風は南から』のローグの下、参加者全員が活躍され、また、多くの人々が夢と感動を抱く大会になることを願っております』と挨拶され、続いて炬火が点火されました。



各競技の紹介

◆ 陸上 (身体・知的) : 白波スタジアム (鹿児島市)



◆ 水泳 (身体・知的) : 鴨池公園水泳プール (鹿児島市)



◆ 卓球 (身体・知的・精神) : 西原商会アリーナ (鹿児島市)



◆ **アーチェリー (身体) :**
鹿児島ふれあいスポーツランド
(鹿児島市)



◆ **フライングディスク (知的) :**
県立サッカー・ラグビー場 (鹿児島市)



◆ **ボウリング (知的) :**
サンライトゾーン (鹿児島市)



◆ **ボッチャ (身体) :**
指宿総合体育館 (指宿市)



◆ **サッカー (知的) :** 国分運動公園多目的広場・陸上競技場 (霧島市)



閉会式 10月30日(月) 白波スタジアム

高円宮妃久子さまがご臨席され、「大会を通じて育まれた選手同士の友情や鹿児島県都の方々との絆が、いつまでも皆さんの心に残る貴重な思い出となることを願っております。」と挨拶された後、来年の開催地である佐賀県に大会旗が引き継がれ、大会を見守った炬火が納火されて、3日間にわたった障がい者スポーツの祭典が閉幕しました。



お別れ会 10月30日(月) 鹿児島県

札幌選手団のお世話・応援をしてくれた
鹿児島県職員・ボランティアさんへ
“ありがとう”“感謝”“お疲れ様でした”



解団式 10月31日(火) 新千歳空港

鹿児島から宮崎空港・羽田空港経由で新千歳空港に到着し、選手は長旅で疲れもありましたが、充実した鹿児島大会を終え、選手皆、笑顔で大会の余韻を楽しんでおりました。秋元市長に代わってスポーツ局松井障がい者スポーツ担当係長から、「嬉しいことも悔しいこともあったかと思いますが、今回の大会で得た経験を糧に選手の皆さんには、それぞれの夢や目標に向かって、より一層ご活躍されますことをお祈り申し上げます。」と挨拶があり、障がい者スポーツ協会菅田事務局長から「札幌選手団の成績は金メダル8個、銀メダル14個、銅メダル4個、計26個と大活躍でした。」と大会結果報告がありました。



燃 ゆ る 感 動 か ご し



陸上選手

堺本 裕哉

ぼくは100mと200mに出場しました。200mは25秒95という自己記録がでてよかったです。100mは腕とひざをあげて走りました。3位で銅メダルを取れてうれしかったです。来年も選ばれたら行きたいと思います。ぼくも、いい記録を出せるように冬の冬期練習でがんばって休まずにがんばりたいと思います。



陸上選手

植田 万喜子

真っ青な空、桜島が見守る鹿児島島の競技場を、たくさんの応援を受けながら、1500メートルの最後の一周を走りきり、ゴールした瞬間思わず涙があふれ出てきました。

大切なものを失い泣いて暮らした日々も、この大会で出会った多くの方々の明るい笑顔が、色々な想いを吹き飛ばしてくれました。

今回、この大会に出場できた感謝の思いは、どんな時も頑張るゴールを目指し、誰かを応援していきたいと強く願っています。



水泳選手

吉川 恭平

年内最後の大会で自分自身初参加の大会と言う事もあり、意味深い大会になりました。

特に今年にはたくさんの大会に参加して、仕事と両立しながらどこまで自分の実力がついているのか確かめるのにとっても良い経験になりました。

自己ベストは更新しメダルを獲得しましたが、目標タイムには届かない結果でしたので、練習からレースに入るまでの動きなどこれからまた積み重ねて参ります。



水泳選手

横山 航也

50m自由形と50mバタフライに出場させていただきました。九州までの遠征は人生で初めてのことで、そもそもの移動に不安もあり、また、コロナ禍を経て久しぶりに出場する大きな大会であることで、緊張もありましたが、本番は大舞台のレースに気持ちが高揚して、気持ちよく泳ぐことが出来ました。

結果は自由形が銀メダル、バタフライが金メダルでしたので、札幌市の成果に貢献出来てひと安心です。今後もうい泳ぎができるよう、励んでいきたいと思います。



卓球選手

船戸 理来

私は今回初めて札幌代表として国体に参加しました。そして、開催地である鹿児島県に行くのは初めてで凄く楽しみにしていました。数日過ごしてみると、ご飯が凄く美味しく気候もポカポカしていて過ごしやすかったです。お肉系は特に美味しかったと感じました。

また、現地の人も温かく優しく、たまに出る方言もとても可愛かったです。実は、私は北海道代表として栃木国体に出場していました。初めての全国大会、結果は銀メダルでした。周りには勝てるぞと言われ、試合に臨みましたが、緊張から普段通りのプレーが出来ず負けてしまいました。

しかし早くもリベンジの機会が訪れました。負けてから1年間ずっと悔しい想いを抱えながら練習してきました。迎えた本番は1度経験しているからか、いつも以上に身体が動き結果は金メダル。頑張ってきて報われた気持ちで一杯でした。チームメンバーにも恵まれとても良い遠征でした。



卓球選手

寺島 誠紀

私の鹿児島大会の目的は見ている人に勇気と希望を与えることだ。

そのために声を張り上げ、全力でプレイをする。自分の心からの叫びは自分の緊張を吹き飛ばし、見ている人にも感動を与えることから、全力で声を出しプレイでき銀メダルを取ることができた。試合が終わって分かったことは自分も応援してくれた方から勇気や希望をもらっていたことだ。人は支え、支えられて生きている。そんなことが分かった大会だった。



ま 大 会 を 振 り 返 っ て



アーチェリー選手

小林 旺雅

僕は初めて全国大会に出場させていただきました。桜島が噴火する鹿児島県は、10月の終わりなのに暑かったです。長旅の中に車窓から霧島神社や桜島等を見ることができ良い思い出になりました。

競技では緊張と鼻水で全力を尽くすことができませんでしたが、最後の一矢は満点となり、うれしかったです。支えてくれた倉知先生、関係者の皆様と両親に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも頑張っていきたいと思います。



ボウリング選手

鈴木 健一

19年ぶりに全国大会の出場が決まりました。今回は鹿児島県に初めて行きました。毎日がとても暑かったです。

28日は13時20分から前半2ゲームの競技が始まりました。

29日もバスに乗ってボウリングの会場に行って、13時30分から後半2ゲームの競技が始まりました。15時10分くらいに競技が終了しました。最後に壮年がメダルをもらっていました。同じ札幌市代表の木村博幸さんが銀メダルを取りました。

30日は閉会式をやりました。約2時間くらいでした。最後に退場するときは、鹿児島県のみんなとハイタッチしながら退場しました。



フライングディスク選手

高木 健多

今回初めて全国スポーツ大会「燃ゆる感動 かがしま大会」にフライングディスク競技で参加でき、たくさんの思い出を作る事ができました。いつもは屋内で練習をしているので、屋外で風の影響を受けながらディスクを投げる事がすごく難しかったです。メダルまではあと一歩でしたが、初めて見る鹿児島の風景や美味しい食べ物、ボランティアさんとの会話等、毎日が楽しかったです。朝早くからの移動が大変でしたが、またこの大会に参加できるよう練習を頑張ります。



フライングディスク選手

小倉 研二

僕は初めてフライングディスクで全国スポーツ大会「燃ゆる感動 かがしま大会」に出場しました。アキュラシーとディスタンスの2種目に出ました。

外での競技なので、風が強くなったり暑い日差しの中、頑張りましたが、メダルはとれませんでした。

コーチの方にアドバイスしていただいたり、ボランティアの人達にお世話になりました。5泊6日、楽しく過ごすことができ、うれしかったです。応援してくれた皆さん、ありがとうございました。



ボッチャ選手

菊池 大地

僕たちは、1勝1敗で2位でした。試合会場の床はボールが転がらず遠くに投げられないなと思いました。1試合目、1球目がびったりジャックボールについて、ヤッターという感じでした。2試合目は、なかなかボールがジャックによらず負けてしまいました。残念です。

ホテルの部屋は、段差がなくて、僕は良かったです。砂風呂にも入れたし、温泉も良かったし、食事もおいしかったです。閉会式の前には、買い物をしたり、アイドルやマスコットと写真を撮ったりして、楽しかったです。6日間、5人で過ごして楽しかったです。ありがとうございました。



サッカー選手

前田 拓也

昨年の全国大会ではアキレス腱断裂のため出場出来ず、今回の全国大会の出場は久しぶりとなりました。結果は初戦敗退という結果に終わってしまい、

とても悔しい思いをしました。宿舎では仲間と今回負けてしまった理由について、今後どうしていくのがいいか話し合いを重ねました。来年佐賀県で行われる全国大会では、良い結果を出せるように練習を精一杯頑張ろうと思います。ありがとうございました。



【札幌選手団】名簿

団長 浅香 博文
副団長 長江 睦子 松島 康之
総務 松井 修一 菅田 恒 深宮 しのぶ 鈴木 香 岡崎 勇二

陸上 (14名)

コーチ 鎌田 幸枝 関口 明美
 岡田 裕樹 高橋 隆芳
 植田 研一
選手 植田 万喜子 草薨 章一
 櫻木 悠太 望月 達哉
 五野井 志保子 堺本 裕哉
 伊藤 力哉 佐藤 爵
 田中 岳斗

水泳 (9名)

コーチ 高橋 ちか子 佐々木 三枝子
 金岡 ゆみ子 田村 真理子
選手 田村 優衣 赤沼 雅子
 横山 航也 吉川 恭平
 野村 萌

アーチェリー (3名)

コーチ 倉知 永子 小林 倫子
選手 小林 旺雅

卓球 (12名)

コーチ 江口 睦子 清水 明子
 安藤 孝志 佐藤 史人
 盛 和夫 苅野 優
選手 船戸 理来 鳥羽 晶幸
 和田 響亜 山本 涼生
 寺島 誠紀 藤丸 知子

フライングディスク (3名)

コーチ 三木 康徳
選手 小倉 研二 高木 健多

ボウリング (3名)

コーチ 嶋田 賢一郎
選手 木村 博幸 鈴木 健一

ボッチャ (5名)

コーチ 菊地 ひとみ 菅 大地
 福永 俊太
選手 菊地 大志 富樫 佑介

サッカー (20名)

監督 小島 諭師
コーチ 馳川 尚平 佐々木 翼
 久保 昌弘
選手 依田 航 岡本 昂平
 國吉 拓夢 彦根 一成
 前田 拓也 澤井 凌
 工藤 龍輝 吉田 一考
 山木 開斗 高橋 正英
 枝松 利一 梶浦 稜真
 中本 裕斗 只野 絢太郎
 高橋 巧 紀藤 強

スズポの伝言板

『第23回全国障害者スポーツ大会のお知らせ』

SAGA 2024 国スポ 全障スポ

大会日程 2024年10月26日(土)~28日(月)

競技会場地 佐賀市等14市町

スローガン 新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。

開催基本方針
 ○する！「する」選手も、選手でない人も参加できる大会へ
 ○観る！「観る」エンターテインメント性の高い大会へ
 ○支える！「支える」みんなで力を合わせ、つくる大会へ

実施競技 個人競技 7 競技、団体競技 7 競技、オープン競技 8 競技

編集後記

桜島の噴火の下「燃ゆる感動 かごしま大会」が鹿児島で開催され、惜しまれながら幕を閉じました。

鹿児島は、火山灰が降っているとの情報もありましたが、大会期間中は気持ちの良い夏空？が続き、天気も選手達を後押しして、笑顔笑顔でした。

札幌選手団の皆さん、日頃の練習の成果を十分発揮して、全国の舞台で活躍したことに感謝し、札幌に元気と勇気・感動をありがとうございます。

また、強化練習・大会帯同など、選手を支えてくれたコーチ・関係者の皆さんに感謝し、選手ご家族・学校・職場の皆さん、温かく大会に送り出して頂いて、心からお礼申し上げます。

選手の皆さん、この大会で得た経験は今後、間違いなく“宝もの”になると思います。・・・来年の佐賀を目指して・・・